

農推 第1336号
平成30年5月17日

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生・防除情報メールサービス（5月）

大阪府内の5月の病害虫発生状況と今後1か月の防除対策についてお知らせします。
気温が高くなってきました。農作業中の熱中症には気をつけてください。
高温時の薬剤散布は薬害が出やすいので注意しましょう。

- 各病害虫の発生状況は、巡回調査や植物防疫協力員の報告等をもとに作成しています。
- 各病害虫の詳細や、農薬を使用しない防除方法等は、下記ホームページの「防除指針」を参照してください。

◎ 「病害虫防除グループホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/>◎ 「防除指針」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>▲病害虫防除グループ
ホームページ

▲防除指針

目次

1 水稲	P. 1
2 果樹(ぶどう、いちじく、温州みかん、もも、バラ科果樹(もも、すもも、うめ等))	P. 2~4
3 野菜(なす、トマト・ミニトマト、たまねぎ)	P. 5~8
4 きく	P. 8

水稻

いもち病やもみ枯細菌病などの防除のため、種子消毒を行いましょう！

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）



防除のポイント

- ◆ピンク色の卵塊を発見した場合は、水中に掻き落とす。
- ◆水深4cm以下では自由に移動できないので、田植え後の浅水管理が有効である。
- ◆田植直後にスクミンベイト3、スクミノン、ジャンボたにしくんなどを散布して、食害を防止する。
注)スクミノン、ジャンボたにしくん使用後は7日間湛水状態にし、かけ流しや落水はしない。

イネもみ枯細菌病（苗腐敗症）



穂の被害



玄米の症状 ※

防除のポイント

- ◆特に出芽時の温度が高い場合に発病しやすいので、30度以下になるよう育苗時の温度管理に注意する。

いもち病



防除のポイント

- ◆補植用の苗が発生源になることが多いので、早めに処分する。
- ◆発生が予想される場合は、ビームプリンス粒剤やブイゲットフェルテラチェスL粒剤、ツインターボフェルテラ箱粒剤などの箱施用剤を処理する。

縞葉枯病



ヒメトビウンカ（雌成虫）※

特徴

- ◆縞葉枯病は、ヒメトビウンカにより媒介される。

防除のポイント

- ◆育苗ほかにヒメトビウンカが飛来しないように、周辺のイネ科雑草を除草する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください。

果樹

5月前半の病害虫発生状況

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう				灰色かび病		
				べと病		
いちじく				アザミウマ類		
みかん				そうか病		
もも				せん孔細菌病		
				カイガラムシ類		
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ 発生に注意					

ぶどう(加温栽培)

灰色かび病

特徴

- ◆多湿条件で発生が多くなる。
- ◆孢子(分生孢子)が風などによって飛散し、傷口などから感染する。

防除のポイント

- ◆適切に換気を行い、湿度を下げるようにする。
- ◆花がらが発生源となることが多いので、開花後に花がらを取り除く。
- ◆発生を認めたら、フルーツセイバー(7日前まで)、オンリーワンフロアブル(前日まで)、ピクシオDF(前日まで)等を散布する。

特徴

- ◆雨が多いと発生しやすいので、梅雨など雨が続くとまん延しやすい。

防除のポイント

- ◆露地の多発ほ場では梅雨の晴れ間の予防が重要
- ◆予防的にICボルドー66D、ICボルドー48Q、ストロビードライフロアブル(14日前まで)、レーバスフロアブル(7日前まで)などを散布する。
- ◆農薬を散布する際は、薬害や果実の汚れを避けるため、傘・袋かけ後は棚上散布を行う。
- ◆多発して落葉すると樹勢が低下し、次年度にも影響するので、収穫が終わった園もしっかり防除する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください。

いちじく

アザミウマ類



被害果実

特徴

- ◆果実内に侵入し食害する。

防除のポイント

- ◆園地周辺の除草を行う。
- ◆5月下旬～6月上旬頃にディアナWDG（前日まで）、スピノエース顆粒水和剤（前日まで）などを散布する。

温州みかん

そうか病



特徴

- ◆雨が続くと発生が多くなる。
- ◆若い樹に発生が多い。

防除のポイント

- ◆排水、通風を良好にする。
- ◆発生が見込まれる時期に、トップジンM水和剤（みかん／前日まで）、ストロビードライフロアブル（かんきつ／14日前まで）などを散布する。

もも

カイガラムシ類



ウメシロカイガラムシ（うめ）※

防除のポイント

- ◆第1世代幼虫発生期(5月上旬～6月上旬頃)に、スプラサイド水和剤(21日前まで)、アプロード水和剤(幼虫のみ／14日前まで)、モスピラン顆粒水溶剤(前日まで)、コルト顆粒水和剤(前日まで)を散布する。

カイガラムシ類防除の薬液散布は、
幹や枝に薬液がしっかりと届くように
散布する

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください。

バラ科果樹（もも、すもも、うめ等）

クビアカツヤカミキリ



成虫

幼虫



うどん状フラス



中華麺大フラス

特徴

- ◆成虫は体長3～4cm（触覚含まず）。全体は光沢ある黒色で、前胸は明赤色。6～8月頃に羽化、幹や樹皮の割れ目に産卵し、8～9日後には卵が孵化する。
- ◆幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。4月頃からうどん状のフラス（木くず・糞・樹脂の混合物）を出す。
- ◆うどん状のフラスがある穴には幼虫がいる可能性が高い。
- ◆若齢幼虫はうどんよりも細い（中華麺大）フラスを出すことがあり、この時期の防除が効果的。



被害枝



ネット被覆（さくら）

防除のポイント

- ◆フラスが見られた樹は幼虫が生息している可能性が高いので、成虫が羽化する6月上旬頃までに、ネットを巻き付けるなど成虫の拡散を防ぐ対策をとる。ネットは4mm目合いのものを、高さ2m程度まで2重に巻く。ネットを樹幹に密着させると成虫がネットを噛み切るの、樹幹との間に余裕を持たせる。
- ◆ネット内での交尾・産卵を防ぐため、定期的にネット内を確認し、成虫を見つけしだい捕殺する。
- ◆伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い成虫が拡散することを防ぐ。
- ◆フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してからロビンフッド（前日まで）、ペニカカミキリムシエアゾール（前日まで）を注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。

4月11日付で防除情報「クビアカツヤカミキリに警戒！！」を発表しました。
 詳細はホームページを参照して下さい。 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/>



野菜

5月前半の病害虫発生状況

品目	程度		少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす					アザミウマ類		
					すすかび病・灰色かび病		
					うどんこ病		
トマト・ミニトマト (施設栽培)					コナジラミ類・ トマト黄化葉巻病(TYLCV)		
				すすかび病・ 葉かび病			
					うどんこ病		
たまねぎ					べと病		
					白色疫病		
						ネギアザミウマ	

なす

アザミウマ類



ミナミキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆ 苗からの持ち込みによる発生が多く見られている。

防除のポイント

- ◆ 発生が見られたら、ディアナSC(前日まで)、プレオフロアブル(ミナミキイロアザミウマ/前日まで)、モベントフロアブル(前日まで)を散布する。

すすかび病・灰色かび病



すすかび病

防除のポイント

- ◆ 保温のためハウスを閉め切ることが多くなるが、適度に換気を行い、湿度を下げる。
- ◆ 発生を認めたら スコア顆粒水和剤(すすかび病/前日まで)、カンタスドライフロアブル(すすかび病、灰色かび病/前日まで)を散布する。

うどんこ病



特徴

- ◆ 窒素過多で曇天が続くと発生する。

防除のポイント

- ◆ 発生が見られたら、パンチョTF顆粒水和剤(前日まで)、プロパティフロアブル(前日まで)、スコア顆粒水和剤(前日まで)を散布する。

● 病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

● 農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください。

トマト・ミニトマト(施設栽培)

コナジラミ類・トマト黄化葉巻病(TYLCV)



トマト黄化葉巻病発症株

タバココナジラミ
※

特徴

- ◆ トマト黄化葉巻病は、コナジラミ類により病原ウイルス（TYLCV）が媒介される。

防除のポイント

- ◆ 感染すると株ごと除去する以外に対策がないので、コナジラミ類の防除を徹底する。
- ◆ 感染株からの二次伝染を防ぐため、除去した株はビニル袋等に密閉して完全に枯死させる。
- ◆ ほ場周辺の雑草、特に野良生えトマトの除去を徹底する。
- ◆ 施設開口部に目合い0.4 mmのネットを展張する。

すすかび病・葉かび病



被害葉※

特徴

- ◆ 日照不足で樹勢が落ちると発生しやすい。
- 《すすかび病》
- ◆ 近年増加傾向にある。葉かび病よりかびが黒く見えるが、見分けることは困難。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、トリフミン水和剤（前日まで）、スコア顆粒水和剤（トマトのみ／前日まで）などを散布する。

うどんこ病



特徴

- ◆ 窒素過多で曇天が続くと発生する。

防除のポイント

- ◆ 発生が見られたら、パンチョTF顆粒水和剤（前日まで）、アフエットフロアブル（前日まで）、トリフミン乳剤（前日まで）を散布する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、ラベルの登録内容を確認してください。

たまねぎ

べと病 二次感染の時期です。気象情報に注意し、予防的防除を徹底しましょう。



二次感染株



二次感染株(拡大)

特徴

- ◆ 苗床・定植後に、前作の作物残さなどから感染し、1～2月に越年罹病株として病徴を現す。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、リドミルゴールドMZ（7日前まで）、ベトファイター顆粒水和剤（7日前まで）かプロポーズ顆粒水和剤（7日前まで）を散布する。
- ◆ 発病した株は感染源となるので、抜取る。抜き取った株は肥料袋などに集め、石灰窒素を加えて密封するなど、ほ場外へ持ち出した上で、適切に処分する。

注意

【べと病・白色疫病】 ジマンダイセン水和剤（5回）
 【べと病のみ】 ペンコゼブ水和剤（5回）
 【べと病・白色疫病】 リドミルゴールドMZ（3回）
 上記薬剤は同一成分マンゼブを含む。
 マンゼブの総使用回数は5回以内。

病害虫防除情報

「たまねぎべと病の予防散布を徹底しましょう！」
 も参考にして下さい（平成30年3月1日発表）

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/H29nd/H29yosatu.html>



白色疫病



特徴

- ◆ 春が比較的温暖で雨が続くと発生しやすい。

防除のポイント

- ◆ 発生が見込まれる時期に、予防散布として、ランマンフロアブル（7日前まで）、ジマンダイセン水和剤（3日前まで）を散布する。
- ◆ 発生を認めたら、リドミルゴールドMZ（7日前まで）かプロポーズ顆粒水和剤（7日前まで）を散布する。

注意

【べと病・白色疫病】 ジマンダイセン水和剤（5回）
 【べと病のみ】 ペンコゼブ水和剤（5回）
 【べと病・白色疫病】 リドミルゴールドMZ（3回）

上記薬剤は同一成分マンゼブを含む。
 マンゼブの総使用回数は5回以内。

ネギアザミウマ



ネギアザミウマ ※

特徴

- ◆薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤を連用を避け、ローテーション散布する。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、ディアナSC（前日まで）、モスピラン顆粒水溶剤（7日前まで）、プレオフロアブル（3日前まで）を散布する。

きく

白さび病



特徴

- ◆施設では春先と初冬に、露地では初夏～梅雨時と秋期に発病が多い。

防除のポイント

- ◆ハウスでは換気を良好にし、湿度を下げる。
- ◆被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
- ◆ストロビーフロアブル等を散布し、予防に努める。
- ◆発生を認めたら、アフエットフロアブル、トリフミン乳剤等を散布する。

注) ストロビーフロアブルは高温多湿下では、薬害の恐れがあるので使用しない。
他剤との混用は薬害が生じる恐れがあるので注意する。

黒斑病、褐斑病



黒斑病 *

特徴

- ◆雨滴によって感染が拡大するので、降雨前にしっかり防除する。

防除のポイント

- ◆被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
- ◆ダコニール1000、ストロビーフロアブル等を散布して予防する。

注) ストロビーフロアブルは高温多湿下では薬害の恐れがあるので使用しない。
他剤との混用は薬害が生じる恐れがあるので注意する。